

高岡市のベンチャー企業がアルミ廃棄物から水素を生み出す装置を開発し、トヨタ自動車との導入に向けた実証実験が行われる。脱炭素化の動きが国際的に加速する中、水素など次世代エネルギーへの関心が高まっている。富山発の新技术が水素エネルギーの普及に向けた弾みになることを期待したい。

## 廃アルミから水素生成

計画では、トヨタの工場から大量に出るアルミくずを装置に投入し、純度の高い水素（アルミ水素）を効率的に発生させる方法を確立する。燃料電池車への充填用や工場の電源として早期の実用化も視野に入れている。

計画では、トヨタの工場から大量に出るアルミくずを装置に投入し、純度の高い水素（アルミ水素）を効率的に発生させる方法を確立する。燃料電池車への充填用や工場の電源として早期の実用化も視野に入れている。

たものが主流で、多くのCO<sub>2</sub>を出している。廃棄物を使いながら、新たなエネルギーを生み、しかも環境に優しい。そんな今回の技術は、水素エネルギー分野の技術革新について重要なエネルギー源になると期待されるためだ。関連の技術開発で日本が世界の主導権を握る可能性を秘めているとも言われる中で、今回の実証実験が行われ、加えて強いブランド力を持つグローバル

成長戦略と位置付け、研究開発を推進していく構えである。追い風を生かし、県内でも自治体や関係機関・団体が一体となって関連産業の支援体制を強化していくべきだ。

もう一つ指摘したいのは、アルハイテックの従業員がわずか7人ということだ。アルミ水素の研究を始めて15年でトヨタとの実証実験に至ったという。国内産業の国際競争力を立て直すためには、イノベーションの担い手となるベンチャー企業を育てる力が問われている。そんな観点で、小粒でもキラリと光るこの企業の今後に注目したい。

## 次世代エネ普及に弾み

野に入れてい

アルミ水素は、生成する過程で二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を排出しない。現在、燃料電池車向けの水素ステーションで供給されている水素は化学工場や鉄鋼工場で副次的に発生し

菅義偉首相が温室効果ガス排出量を2050年までに実質ゼロにする目標を掲げたことだ。ただ、水素エネルギーに関しては、燃料電池車の普及状況を見ても、まだまだ活用が進んでいない。政府は水素な資源から生成でき、日本にと

アルハイテック（高岡市オフィスパーク）。特殊なアルカリ溶液とアルミを化学反応させる独自技術で、小型の水素生成装置を開発した。この世界初の技術にトヨタが目を付けた。